

札幌市が「全国統一要求書」に回答文書

6月12日に札幌市から、4月11日に提出していた「2023年春闘建交労全国統一要求書」（雇用・失業対策の強化／高齢者の雇用・就労機会の拡大／防災・生活・環境保全の優先、維持・補修を重視した公共事業の発注／公契約条例の制定など適正な賃金・労働条件の確保／建設労働者の賃金・労働条件の改善／季節労働者対策の強化／じん肺・アスベスト被害の防止と補償の拡充／JR北海道への支援強化等）への回答文書が届きました。交渉は7月21日に重点項目について対面でおこなう予定です。対面での交渉はコロナ禍により2019年以来4年ぶりとなります。

カイゲンファーマ支部が春闘・一時金妥結

小樽一般労組カイゲンファーマ支部は、春闘の賃上げ交渉については「ベースアップ4,000円＋定期昇給（組合員平均5,000円）＝9,000円」で、一時金については「年間4.1か月分」で妥結しました。

JR北海道から報告受ける

6月8日にJR北海道から「経営改善に関する取り組みの第4四半期報告」と「線区別収支とご利用状況」「アクションプランの取り組み報告」がおこなわれ北海道鉄道本部三役が出席しました。経営改善に関する取り組みではほとんどの項目で目標が達成されており、線区別収支と利用状況については「新型コロナウイルスの感染者数が減少する中で国内外からの観光利用者増加による利用状況は改善されているが、感染前との比較では8割台の回復にとどまっており、物価高騰や原油価格の上昇による影響が重くのしかかっている」と説明を受けました。北海道新幹線においては国が取り組んだ全国旅行支援によって利用者が増加して前年比1.5倍の営業収益を上げていますが営業費用は変わらず、営業損益（赤字額）は128億円を超えるものでした。

「アクションプラン」の報告では8線区の取り組みが紹介されたのに対して、子ども体験学習ツアーやJRの乗り方講座の実施は子どもたちに鉄道を身近なものと感じてもらいたい大切な取り組みであり引き続き各地での実施をすすめること、沿線各地域で開催される催事などに訪れる人たちへのJR利用を呼び掛けるポスター掲示を積極的におこなうこと、宗谷線ステーションカードの配布については取り組み期間に利用者の増加につながっているのかなど効果の報告を求めるとともに、実施前に組合に周知されることでつながりを通じて紹介できると期待と要望を伝えました。

北海道鉄道本部が伊達で魚釣り交流会

好天に恵まれた6月6日、北海道鉄道本部は恒例になっている伊達市黄金沖での魚釣り交流会をおこない6人が参加しました。天候は快晴で無風のベタ風状態。船の上は暑くTシャツ1枚にライフジャケットを羽織るだけで十分な気温で、強い紫外線を浴びながら8時間の釣行を楽しみました。優勝は竹田委員長が30号の細いロッドに3号ハリスでPEライン1号を巻いた2500番の小さなリールでドラッグ調整を繰り返し3分間の攻防のうえ仕留めた5kgのカスベを含め13.3kgを釣り上げました。準優勝にはアブラコの良型をはじめ色々な魚を集めた追分支部の大内さんが10.3kg、身長賞は51cmのイシモチを釣り上げた滝川支部の藤沢さん、珍魚賞は良型のハッカクを釣った室蘭支部の渡部さんでした。追分支部の鷲沢さんは5.5kg、苗穂支部の梅木さんも8.0kgを釣り上げて大奮闘しました、参加者一同は楽しい一日を過ごさせてもらいました。